

# 令和4年度生徒指導方針

## 1 基本方針

### (1) 人格の尊重

すべての生徒の人格を尊重し、どの子も「もっと良くなりたい」という願いを持っていることを信じ、一人ひとりの全面発達を支援する。

### (2) 個性の伸長

生徒の生活のありようを深く見つめ、生徒たちが自らどう生きていくかを共に考えながら指導していく。さらに集団づくりを進め、「志高く、未来を拓く、高西中教育-自立・協働・創造-」という学校教育目標のもと、生徒一人ひとりが持つ良さを十分に発揮し、それを認め合える生徒同士の「絆」を大切にした指導を行う。

### (3) 自己指導力の育成

夢・目標の実現のために耐える力、人として守らなければならないことを実行する力等の自己統制力（耐性）を育て、さらにその場その時の行動を生徒自らが「判断し」「実行し」「責任をとる」という経験の積み重ねを通じて自己指導力を育成する。

### (4) 基本的生活習慣の育成

『時を守り、場を清め、礼を尽くす』生徒の育成をめざす。

さらに、社会生活を営む上で必要な資質・能力の向上、規則正しい生活習慣の確立に向けた指導を行う。

### (5) 受容と要求の統一

生徒の話を聞く中で感情や気持ちは「受容・共感」的に受けとめていくこと、許容できない言動に対しては「要求・指導」していくことを通じて、生徒の生き方・在り方に積極的に関わる。

## 2 生徒指導目標

### 『心をつなぐ生徒指導 ～集団づくりを通して～』

本校では、問題行動が起こった際は、「何が正しく、何がいけないか」を毅然と指導し、さらに生徒の「生き方」に迫る語りを大切に、生徒の「やる気」を引き出す指導を進めている。しかし、本校においても、不登校や問題行動等、学校への不適應を示す生徒は少なくない。昨年度から、特別活動の充実により、カリキュラムの中で、すべての生徒が、『多様な学びを通して自分の願いを叶えられる』ような活動について考えてきた。本年度さらにそれを深化していくこととあわせて、集団作り（集団を担っていく 生徒を育てていく）を充実させ、ソーシャルボンド（**人と人、人と場を繋ぐ糸「絆」**）を強化する。その観点から、班を基盤とした学級活動、生徒会活動、部活動の在り方を研修し、充実させる。生徒指導と特別活動の両輪を動かす、生徒の実態を「行動、ことば」そして「心」の面からの確に捉え、以下の3点を大切にしたい指導をしていく。

- ◇ 教師と生徒，生徒と生徒，個と集団とがつながり，信頼しあえる関係を築く。
- ◇ 様々な価値にふれ，生きていく上でのルール，共通規範を構築する。
- ◇ 夢・目標の実現のために生徒の「やる気」を引き出し，励ます。

### 【重点目標】

#### (1) 生徒指導の三機能を活かした授業作り

- ① 自己決定の場 共感的人間関係の形成 自己肯定感の向上
- ② 枠（わく）の設定
  - ア 「毅然とした指導『ダメなものは、ダメ』と「生徒が自己決定できる場」のバランスをとる
  - イ 学級のルール作り「クラスとして大切にすること」「このことは許さない」等、「正義が通じる」共通の規範を作る

#### (2) 話し合いを基盤にした学級集団作り

##### 話し合い活動の充実

- ア 互いを支え合う温かい仲間づくりを促進する
- イ 学級リーダー（集団の担い手）を育てる
- ウ 問題解決の道筋を学ばせる

#### (3) 生徒会活動の活性化

- ① キャンペーン活動の充実（P10を参照）
 

委員長が中心となり，学校生活改善計画の作成・実施
- ② 生徒が主役になる行事の実施
 

リーダーに有用感，達成感を持たせる指導

※ 陰では「細かく厳しい指導」，生徒の前では「リーダーを前面に」

## 3 具体的な取組み

### (1) 生徒指導体制

#### ① 組織の強化

- ア 事実の記録をしっかりとする。（些細な事案でも記録を残すことが重要である）
- イ 生徒指導委員会を週1回もち，月目標を決め，具体策を考え，各学年の連携取組みの確認をする。
- ウ 生徒指導委員会で話し合われた目標や取組み，役割分担，期間を明確にし，全体に周知徹底しながら，生徒指導委員，担任等を中心としたチームで指導していく。またマネジメントサイクルに乗せて，改善の必要なものは柔軟かつ適切に対応する。
- エ 「報告」「連絡」「相談」「確認」を通して，共通理解の下，的確に指導する。
- オ 警察・子ども家庭センター等の他機関連携を密にし，生徒個々に応じ最善の指導を探る。

## ② 小中連携の充実

校区内2小学校との連携を月1回定期的に持ち、生徒指導主事を中心に多くの教職員が授業参観や研修会・情報交換会を通して連携し、取組みに活かす。

## ③ 集団作りの推進（積極的生徒指導）

すべての授業、ホームルーム、体験活動などを通し、「人間関係を築く力」を育てることをめざす。生徒による「判断（自己決定）」「実行（問題解決）」「（その行動に）責任をとる」サイクルを重視し、生徒が相互にコミュニケーションをとる場を意図的に仕組み、指導する。

### 集団作りを通して

生徒の指導力を活かす ～生徒によって生徒が変わる～

- 【愛着】信頼関係、集団への帰属感「我々意識」の形成  
→ プライドを形成する。
- 【関わり】役割・活動に向き合う「力」と「意欲」、さらにやり終えての「達成感・有用感」の形成  
→ 「役割」は集団と個人を繋ぐ装置である。  
(今の子どもには、集団の中に座る座布団〔役割〕がない)
- 【巻き込み】温かい雰囲気作り  
(どの子も一人ひとりがかけがえのない大切な存在)  
安心できる温かい学級作り「居場所作り」
- 【規範意識】基本的な生活習慣・学習習慣の形成  
規律ある学校生活  
規範意識ならびに市民意識の育成  
→ 子ども集団の中に、「共通の規範（何が正しく、何が間違っているか）」を構築する。 → 安心して自分の思いを表明できる場所に！

→自分のために何もしてくれない

…つながる意味のないところには従う理由がない。

## (2) 教育相談体制

### ① 情報共有と行動連携

- 教育相談委員会を週1回もち、課題のある生徒の状況報告や分析、アセスメントを行う。(特別支援教育委員会を月1回開催する)
- 学年担任は朝読時に教室で担任と連携し、ホワイトボードに欠席者を記入する。そのことを通じ、欠席に対する職員の意識を高めるとともに、早期の対応(電話連絡・家庭訪問)を組織的に進める。
- 教育相談委員は、欠席・取組み状況を毎日データ化、ネットワーク化し、情報を職員全体で共有する。
- 個別の対応表(カード)を作成し、個人のファイルに記録を残す。
- 学年を基本としたチームで指導する。当該生徒にとって最善のメンバーを構成し、組織的に取り組む。

- 学期毎に教育相談（キャリアカウンセリング）の時間を設定し、いじめや不登校などの未然防止，早期発見・早期対応に努める。
- ② 指導力の向上（資源の活用を通じて）
  - スクールカウンセラー（以下SC）と連携をしながら，取組みの具体策を考える。
  - 事例研修会を実施し，教職員の資質，能力を高める。
- (3) 教育課程の充実
  - 特別活動の充実を図り，生徒の心をつなぎ，強くし，生き方を考えさせる授業づくりをめざす。また，そのための指導力向上に向け，講師を招聘し，研修をする。
  - 「総合的な学習」の時間などの工夫により，体験的な学習及び諸活動を通じて，コミュニケーション能力の育成の場を意図的に設ける。
  - 学習規律（ベル着，黙想，あいさつ，忘れ物）を徹底する。
- (4) 開かれた学校づくり
  - 相談室（SCによるカウンセリング）の紹介に努め，活用を促す。
  - 学活の公開授業，地域貢献活動(ボランティア)，地域行事等への積極的参加を行う。
  - 学校だより，学級通信，生徒指導通信，Webページによる情報の積極的公開に努める。
  - P T A，地域の保護司，補導委員，民生・児童委員や関係機関と連携し，取組みに生かす。
- (5) その他
  - 行事の活性化や問題行動の未然防止に向けたキャンペーンを生徒会活動に位置づけ，生徒の指導力を最大限に引き出す。
  - 生徒会活動や行事を通じ，社会性，自己表現力，及び問題解決能力を育成する。
  - 定例の全校朝会・生徒集会を行い，生徒の自治の力を育てると共に，意見発表など生徒のコミュニケーション能力の育成に努める。
  - 授業，ホームルームなどの日常的な語りを通して，「殻を破り夢にチャレンジする」「時を守り，場を美しくし，礼を尽くす」など高めたい学校風土を全校で共有する。
  - 部活動の意義を確認し，人間形成に力点を置いた取組みを進める。  
（あいさつ，言葉遣い，部室管理，ルールを守る意識）